

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2		
○必修 学校必修 必修選択 自由選択	白川 和彦 村松 淳矢	使用教科書 地理総合 (第一学習社) 新詳高等地図 (帝国書院) 補助教材・副教材 地理図表GEO (第一学習社)

#### ◆学習の目標

- ・現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し、現代世界の地理的認識を身に付ける。
- ・地理情報システムの操作や活用を通して、地理的事象の考察力を高める。
- ・地理的な見方や考え方を育み、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

#### ◆主な学習内容・方法

- (1) 地図やGISを活用する技能を身につけ、現代世界の地理的事象を考察する。
- (2) 生活文化の多様性と地球の課題を学び、国際理解、国際協力について理解を深める。
- (3) 自然環境の特性や防災を学び、生活圏の調査や持続可能な地域づくりの理論と方法を習得する。

#### ◆到達目標と観点別評価の評価規準

- 〔標準〕現代世界の地理的認識を深め、地理の基礎的・基本的な知識・技能を習得する。  
地理的事象の考察に、地理情報システムを活用する技能を習得する。
- 〔応用〕現代世界の新たな課題や問題に対して、思考力・判断力・表現力その他能力を活用して、既習範囲の大学入試問題にも対応する学力を身に付ける。

##### 〔観点別評価の評価規準〕

##### ○知識・技能

地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

##### ○思考・判断・表現

地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

地理に関する諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

#### ◆年間予定授業時間

予定時数	70時間	1 学期 ( 26時間)	2 学期 ( 28時間)	3 学期 ( 16時間)
------	------	--------------	--------------	--------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・地理の学習で大切なことは、多面的・多角的な視野を持つことである。さまざまな地理的事象に関して、場所や分布、広がりの特徴をとらえ、「なぜ、そのようになるのか」という背景について、因果関係を考察することが大切である。暗記するのではなく、事物の道理を追究すること
- ・授業時間を大切にすること。作業や考察の時間を無駄にしない。他者の意見や解答に注目し自分の考えとの相違をよく見直す。話の内容をメモするなどして自分の学習ノートを作成する。
- ・ニュースなどを通して社会情勢に関心をもつことも、現代世界の特徴を学ぶ上で有効である。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元 ごとの 時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	第1編 地図や地理情報システムと現代社会	7	球面上の世界と地図 世界地図の使い方 デジタル地図と地理情報システム	地図の要素を理解し 時差計算ができる。 GISを活用して、適切な図を作成できる。 国家の領域と国家群の例を説明できる。 グローバル化する世界の動きを多角的に説明できる。 世界の気候の分布と成り立ちを理解し、生活への影響と合わせて説明できる。
	5	第2編 1.生活・文化の多様性	6	国家と領土 交通・情報・貿易・物流と人の移動  中間考査	
	6		13	人々の生活に彩りを与える気候 世界の気候区分と文化  期末考査	
	7				
2 学期	8	2.地球的課題と国際協力	14	持続可能な社会を目指して 貧困問題と食糧・水問題 自然と調和した豊かな社会 地球環境問題 平和で公正な社会に向けて  中間考査	環境問題、食糧問題、貧困問題など現代世界の課題について、背景や要因を学び、解決に至る過程を想定できる。
	9	第3編 1.自然環境と防災	14	地球規模でみる地球の姿と自然災害 暮らしを取りまく自然環境 変動帯の自然と防災 湿潤地域の自然と防災 災害への備え  期末考査	
	10				
	11				
	12				
3 学期	1	2.生活圏の調査と地域の展望	16	生活圏の調査と地域の展望 地域調査の方法   学年末考査	地域調査の方法を通して、地域の課題を想定しながら、将来の地域像に向けての提言を考えることができる。
	2				
	3				